

## 凡 例

三陸地方津浪の現地に於ける調査は主として那須信治、高橋龍太郎、宮部直巳、西村源六郎、大塚彌之助、高山威雄により行はれたるものなれども、報告編輯に當つては以上の外、小平孝雄、木村隼、保田柱二も之れに加擔せり。

那須信治は北海道、青森及岩手縣の一部。高橋龍太郎は青森、岩手及宮城縣。西村源六郎、高山威雄は岩手、宮城縣。大塚彌之助は岩手縣北部。宮部直巳は宮城、福島、茨城の一部を調査せり。地震觀測結果については専ら保田柱二擔當し、檢潮儀記録は宮部直巳の蒐集せるものなり。

現地調査は津浪來襲直後より約半ケ年に亘る間に行はれたるものにして、浸水區域、浸水高を主とし是等は全部卷末地圖中に記入せるもの、原値となれるものなり。但し各調査員の測定値と雖も其の端數において異りたる値を示せる場合もあれども之れは止むを得ざる事とす。

卷末地圖中赤線は浸水限度を示すものにして、限度の判明せざる地域、或ひは狭小にして地圖上に表はし得ざる程度のものは事更に省略せり。又全部赤色とせる所は火災により燃失せる區域を示せり。地圖上の數字は津浪來襲時における海水面を基準とせる浸水高にして、米單位にて之れを示す。浸水高決定に關しては建築物の壁、柱等に殘されたる痕跡、樹枝、電柱、斷崖等に殘置せられたる海草、或ひは針葉樹の一部分海水に浸りて變色せるものを目標として、海面よりの高さを測定せるものにして、其の方法は掌中水準器と卷尺とを以てせり。勿論、其の高さは津浪來襲時に存在したる海水面に基準すべき性質上、測定時の値に潮汐表による補正を施せり。

而して津浪來襲時の海水面は、潮汐表によれば大約平均海水面に相當するを以て、津浪浸水高は平均海水面に基準せるものと爲すも大差なき結果を得。

なほ浸水區域の調査に當つては時日の經過によつて現證の湮滅せるもの少しとせず。此の場合には地方住民の教示により確實性ありと認めたる場合を採用せり。又地圖中記載なき部分は調査を行はざる地域、或ひは痕跡を認め得ざる地方なれども、多くは浪高の著しからず被害も僅少なる所と考へて差支無きなり。區分地圖中記載すべきものの無き場合には、單に番號のみを一覽表に止めて、省略を取てせり。

津浪現地寫眞に就いては撮影者と撮影時日とを明記して參考に供せり。

資料としては各被害地の役場、小學校に宛て照會狀を發せる答申書を以てせり。

報告の中にも答申書に基て作製せるもの存在する爲め、兩者の間に多少の重複はあれども止むを得ざる事とす。

索引は各部落別とし、北部より順次南部に及ぼす事とし、部落索引に順序を示せり。又索引中には寫眞、地圖等の番號も並記して各部落に對照せしめたり。

被害統計表は各官廳、町村役場、警察署の調査に基くものにして、調査の進捗に従ひ正確の度の變ずる事は當然の事にして、其の調査月日を並記して参考に供す。